

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270104617
法人名	有限会社 東雲
事業所名	グループホームつつじが丘しのため
所在地	長崎県長崎市つつじが丘4-15-1 (電話) 095-813-3306
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 10月 14日

【情報提供票より】 (平成20年 9月 9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	7 人
利用定員数計	9 人
常勤	5人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	16,900 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	250 円
	夕食	350 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (9月 9日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 80 歳	最低	69 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森医院、本田整形外科医院、北野歯科、西諫早病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

団地内において住民とのあいさつや交流など地域密着介護を実践している。建物内は清潔に保たれており、風通しもよく生活の音があり利用者の穏やかな生活空間を作っている。昨年度の外部評価結果について前向きに取り組み鍵を掛けない支援に取り組んでおり、利用者本位の支援が貫かれている。介護計画書の見直しの際には計画内容を評価した上で継続、中止、新規の計画を作成し、計画項目に沿った支援に取り組んでおり介護計画書ができたものとなっている。食事の献立を考えたり食材の買い物に出かけるなど利用者の残存能力を活かすため全職員が取り組んでいる。地域の協力、利用者への理解もあり、まさに地域密着の事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価後、鍵をかけない支援や市の栄養士へ栄養バランスの相談するなど具体的に改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員の意見を聞いて施設長がまとめて作成した。職員は作成後の自己評価の内容については目を通し確認している。自己評価に関して毎日の支援の中で該当する内容について話している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年は半年に1回実施していたが、市の指導があり今後は2ヶ月に一度開催を予定している。構成委員は民生児童委員・地域包括支援センター、利用者、家族、ホーム施設長であり、議事の内容は利用者や職員概要説明、活動報告、意見交換などである。近隣へは民生児童委員を通して自治会へ会議の内容を報告している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員が家族から意見など聞いた際には必ず施設長へ報告をしている。内容を把握し出来ることと出来ないことを判断して家族と話し合っている。重要事項説明書に苦情処理体制及び解決の手順が記載されており、入所前に書類を提示しながら重要な部分は口頭で説明している。しかし、現在までに苦情の報告はなく、運営推進会議の中でも話されていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	近隣は高齢者が多く夕方の散歩時は近所の方々からの声掛けが有り、公園で子供達と過ごすこともある。スーパーでの買い物ではレジでせかさず待ってもらったり温かい見守りが有る。地域の中で当事業所は認知されており、自治会には加入しており、敬老会は車椅子等で参加できず引き出物だけ頂くなど交流はある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症の方が地域の中で生活が出来るグループホームをという厚生労働省の方針を基本として設立した。そのため理念はその思いをこめて「ご利用者様の人権と歩まれた人生を尊重し家庭的な雰囲気の中でその人らしく安心して楽しい生活ができるよう介護サービスを提供する努力をいたします」とした。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎朝理念を唱和しており、言葉遣いなど目上の人への尊敬の念をもって接するよう指導している。家庭的な雰囲気の中でその人らしく安心して楽しい生活を送れるよう例えばトイレ誘導は本人のペースにあわせながら支援するなど日々取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣は高齢者が多く夕方の散歩時は近所の方々からの声掛けが有り、公園で子供達と過ごすこともある。スーパーでの買い物ではレジでせかさず待ってもらったり温かい見守りが有る。地域の中で当事業所は認知されており、自治会にも加入しており、敬老会は車椅子等で参加できず引き出物だけ頂くなど交流はある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員の意見を聞いて施設長がまとめて作成した。職員は作成後の自己評価の内容については目を通し確認している。自己評価に関して毎日の支援の中で該当する内容について話している。昨年度の外部評価後、鍵をかけない支援や市の栄養士へ栄養バランスの相談するなど具体的に改善に向けて取り組んでいる。		

グループホームつつじが丘しのため

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は半年に1回実施していたが、市の指導があり今後は2ヶ月に一度開催を予定している。構成委員は民生児童委員・地域包括支援センター、利用者、家族、ホーム施設長であり、議事の内容は利用者や職員概要説明、活動報告、意見交換などである。近隣へは民生児童委員を通して自治会へ会議の内容を報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所へ出向き長崎市健康づくり課の栄養士による栄養バランスの指導を受けた。運営委員会の報告は地域包括センターを通して長崎市へ報告されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは週に1回の面会時や、病院の付き添い時などを利用して随時様子を伝えている。来られない家族へは、2・3ヶ月に一度手紙で状況報告をしている。職員の異動があった場合はその都度家族に話している。金銭管理は事業所が立替して一ヶ月分を請求書とともに送っているため基本的には金銭の預かりはおこなっていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が家族から意見など聞いた際には必ず施設長へ報告をしている。内容を把握し出来ることと出来ないことを判断して家族と話し合っている。重要事項説明書に苦情処理体制及び解決の手順が記載されており、入所前に書類を提示しながら重要な部分は口頭で説明している。しかし、現在までに苦情の報告はなく、運営推進会議の中でも話されていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が働きやすい環境を整備するために、残業や休日出勤は極力なくし、夜勤も月に5、6回になるように配慮している。また職員のストレス発散のための忘年会などを勧めたり、昼休み時は施設長は席を外し、職員がゆっくりと休める環境づくりをしている。		

グループホームつつじが丘しのため

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、施設長が現場であったこと、気になった事をその時に説明指導している。その場には折に触れて説明し情報を共有している。外部研修は可能な限り参加しており、研修費用は事業所が負担している。ただし、研修の資料は受講者が持ち帰っており、ファイルの整備がなされていない。また職員へ資格取得を促しているが、取得希望がない。	○	研修報告書や資料のファイル整備を行い、全職員が研修内容を共有化できるよう期待したい。また、内部研修は年間計画をたて自己評価項目などを研修材料に研修の職員の業務に対する意欲向上の動機付けとやりがいに繋げることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は月に一度、同業の13事業所で組織する連絡協議会に参加し、情報交換を行っていた。現在は不定期ではあるが、長崎市グループホーム連絡協議会で職員指導に当たっている。今後は新しく地域別にグループ化された長崎市東部地区グループホーム協議会へ参加をする予定である。ただし、職員同士の交流は現在には行っていない。	○	同業者との交流は施設長だけでなく、職員同士の交流の機会も作り相互に学び合い、利用者へのサービスの質を向上させることにつなげるよう期待したい。
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	老健、居宅介護施設から相談を受け自宅や病院へ伺い本人、家族と面会して利用が可能か検討している。入所後、利用者が馴染むまで職員は無理強いはせず自然にまかせて様子を見ながら他の利用者との関係づくりを支援している。また、職員は傍にいたり、見守りながら話をし情報を拾っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の師であることを念頭に、職員は日々の支援を行っている。利用者からは、日頃の支えあいを、靴を並べ直す、トイレのドアをきちんと閉めるなどのエチケットやマナーを教えることが多い。また、「中秋の名月」などの季節の言葉が日々の中で会話が交わされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度化されている方の思いや意向はしぐさや表情で汲み取っている。特に排泄に関するしぐさは見逃さないように職員は常に利用者を視野に入れて表情などで判断している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向は日々の会話の中からもみ取っている。家族の希望は面会時に聞いて記録している。職員は利用者1名もしくは2名を担当しており、気づきなどを記録してアセスメント表を作成している。利用者や家族の希望は面会時に毎回聞いてプランに反映するようにしている。また、主治医の指示は往診時に聞き取り、それらをもとにケアマネージャーが作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全ての利用者について3ヶ月1回プランの見直しをしており、前回のプランの評価をし継続、中止、新規の計画を作成している。緊急を要するケアプラン変更、追加は青字で追記し、職員がわかるように工夫している。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	例えばドライブ希望があった場合は、職員が車で一緒に出かけ、外食の好きな利用者には希望の店での食事を支援するなど柔軟に対応している。		

グループホームつつじが丘しのため

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である医院から週3回往診があり、2人ずつ受診しており、緊急時も含め24時間体制で対応が取れる体制である。また、ケアマネジャーは看護師でもあるため毎日健康チェックを記録し主治医が訪問時に提出し管理している。以前からのかかりつけ医への通院を希望される場合は、家族に通院支援をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に利用者、家族に対してたんの吸引や医療治療、ターミナルケアのための設備、職員の配置は出来ないことを伝え、「重度化した場合の対応に係る指針」を文書化し家族に渡して同意書をもっている。重度化し吸引・胃ろう・点滴等が必要になった場合、家族・施設長・主治医が話し合い、基本方針を共有し主治医が最終の方針を決定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇り、尊厳を尊重した支援を心がけている。居室への入室時には必ずノックして「入りますよ」と声を掛けて入室し、おむつ交換時は下手に立たないなど実践している。職員にはプライバシー保護法について資料を回覧し説明をした。守秘義務の誓約書を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝昼夕の食事時間やおやつ、体操などの時間は設定しているが、全て無理強いせず利用者のペースを見守り、起床時間の早い方遅い方に合わせて支援している。また、排便のコントロールには特に配慮している。		

グループホームつつじが丘しのめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用開始時に嗜好記録を取っているが、日が経つと好みは変わってきている。お昼のくつろいだ時間帯に利用者から献立の希望を聞くなどして職員が話し合っ決めていく。職員は同じ食事を利用者と一緒に食べており、準備や片付けは利用者も一緒にしている。きざみやとろみ食も提供し、自分で食べられる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金の入浴日は決めてあるが、入れなかった場合は翌日入浴したり、失禁などの場合はいつでもお湯を使えるよう柔軟に支援している。また利用者の重度化に伴い職員の身体的負担を軽減するためにリフト浴設備を整備した。一番風呂を希望する利用者には希望に沿うよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から生け花を教えていた利用者は季節の花を生けて玄関やリビングに飾っている。また、料理の手伝い、タオルたたみなどの役割を持ってもらうなど生活に張りが出るよう支援している。飲酒を楽しまれる方には適宜楽しんでもらっている。また花見などの外出時に車イス用のリフト付き車両で車椅子利用者も外出を楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入浴のない火木土は外出日に予定しており、買い物や図書館等に出かけている。気候のいい時期は夕方、近所の公園まで散歩に出かけ気分転換や外気浴を兼ねた支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昨年度の改善項目となっていた施錠は、玄関先が階段であるため危険防止の目的であったがやはり施錠による弊害を考え、開錠することに取り組んでいる。近隣の音が聞こえ生活感があり普通の生活により近づくことができている。日中の開錠時は職員の見守りで対応している。		

グループホームつつじが丘しのため

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所職員のみで年に一回避難訓練を行っている。夜間想定も一度実施した。消防署や地域の消防団、近隣住民は参加していない。マニュアルや連絡網は作成しており、スプリンクラーも設置している。3日分の非常食、水、懐中電灯は整備している。消防署へ訓練の協力を依頼しているが開所時一度だけで、それ以降実現していない。	○	避難訓練は消防署の協力を得て実施するとともに、地域住民・消防団等の協力を得て利用者も参加して行うなど年に2回は実施することを期待したい。現状は消防署の協力が困難であるが、市役所や包括支援センターに相談するなど実現に向けての取り組みに期待したい。
えない。					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昨年度の改善項目であった栄養指導について、長崎市役所に出向き栄養士に相談し、全体的に高カロリー、塩分過多との指導を受けることができた。そのため吸い物を野菜ジュースに変更し塩分を控え、1日の水分供給の目安として、1.5~2リットルの水分摂取を支援している。食事、水分摂取量は健康管理表に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は吹き抜けとなっており風通しが良く、日当たりもよく明るい。特に衛生面での気遣いがあり毎日消毒液での清掃をしており、利用者へ掃除の行き届いた気持ちいい生活を提供している。また、気が合わない利用者同士は目線が合わないよう席を設ける配慮をしており、手作りのカレンダーや飾り付けは季節感がある。ソファやテーブルセットなど利用者が居心地のいい場所を確保できるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が毎朝掃除をしており、更に月に一度大掛かりな掃除を行って清潔な部屋を保っている。利用者の重度化に伴い医療用ベッドを設置し、動作が楽になるよう配慮している。居室はテレビや仏壇が置かれ、自分の部屋として居心地よく過ごせるよう工夫している。また、ナースコールやセンサーマットも設置し、利用者の安全を支援している。		

※  は、重点項目。